

第9回新生匠瑳戦略会議 会議録（概要版）

開催日時：平成23年9月29日（木）

午後7時00分～9時15分

開催場所：八日市場ドーム選手控室

出席委員：（学識経験者）渡辺新

（団体推薦者）宇野充紘、萱森孝雄、越川竹晴、越川八代枝
鈴木和彦

（一般公募者）大塚榮一、岡田陽子、永野亮太、林暁男、八木幸市

（11人／名簿順）

欠席委員：（学識経験者）鎌田元弘、木村乃

（団体推薦者）安藤建子、橋場永尚 （4人／名簿順）

市出席者：（事務局/企画課）木内課長、大木副主幹、富井副主査（3人）

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

（1）J T跡地、旧小学校施設等の利活用について

- ・9月18日に実施した「里山・檀林ふおーらむ」については、効果があったと思う。地元でやる気のある人がいろいろなアイデアをもって積極的に活動しているので、こういう人たちが集まれば旧飯高小学校の利活用については、何らかの動きが出るのではないかと。また、設置者は市であっても、管理や運営の面で市民側の主体的なかわりがなければ、良い結果にはつながらない。
- ・J T跡地で、市内の高校生にスペースだけ貸して、商売をさせるのはどうか。常識にとらわれない発想をしていけば、新しいエネルギーが生まれると思う。
- ・駅を中心にした整備の提案はいろいろあるが、都市部と比べて通勤客がほとんどいない状態（八日市場駅の平成22年度乗車人員は1日平均1,947人）では、駅周辺の開発はあまり効果がないのではないかと。
- ・駅が人の流れの起点になっていないので、駅、J T跡地、商店街を絡めて考え

る必要がある。商店街に人が集まれば、J T跡地の利用方法はすぐに出てくるのではないか。

- 大手スーパーは安くて品揃えが豊富。ふれあいパークは新鮮でおいしい。そういう環境で、商店街がそれらと同じ土俵で戦っても意味がない。そこで、買い物難民に対し、電話1本で届けてくれる宅配システムを実施するのはどうか。特に車で買い物に行けない高齢者には需要が見込める。または、移動スーパーにして、車で各家を回って販売するシステムも需要があるのではないか。
- 商品が売れる理由は値段だけではない。大手スーパーでは店員と話すことはまずないが、商店街の場合は対面販売が基本である。こういう店の違いを認識して、商店街としての個性をもう少し出せればいいと思う。
- J T跡地については、子どもたちから生まれるサブカルチャーのようなものを重視しながら、しかし、基本は商店街とセットで考えるべきで、ポイントは駅ではなく、商店街だと思う。
- 米倉分校を利用して植木大学（仮称）を設置し、植木の町で知られる匝瑳市で、ハード面（植木そのもの）ではなく、ソフト面（植木技術）を重視したビジネスとして取り組んでみてはどうか。
- 植木の世界では有名な職人が多くいるが、その有名な職人の弟子になってやっついていかないと、自分がいくら上手だと言っても仕事は任せてもらえない。そこで、マイスターのように、第三者評価でその人の技術の評価を決めてあげるシステムができれば、後継者も育っていくと思う。
- 千葉県には植木伝統樹芸士（県が認定。匝瑳市の認定者数は千葉県一）という認定制度があるので、そこで認定された人に講師をお願いするのはどうか。
- 将来的な展望として学校も良いアイデアだが、学生を集めるのが大変である。かつて存在した鎌倉アカデミーのような、いろいろな有名人が来て、そこで弟子を育てるといような一種のサロンみたいなもの、あるいは幕末の塾のようなものをやってみるのも面白いと思う。

（2） 海岸地域の振興について

時間の関係上、協議なし。

（3） 提案書（中間報告）の取りまとめについて

次回の会議で、委員長から中間報告の「概念図」が提案される。それをもとに

各委員から意見を取り入れて、肉付け作業を進めていく。

(4) 総合計画中期基本計画（素案）に対する意見について

- ・ 今回の中期基本計画では、大きな枠組みとしての「東日本大震災」「人口減少」についての記述がなかったので、入れるべきではなかったか。
- ・ 匝瑳市としての個性が感じられない。どの市町村も同じような計画に見える。匝瑳市らしさを出していくためには現状を把握し、しっかり分析を行う必要がある。
- ・ 最近の市町村の総合計画では「市民協働」についての記述が多くなっていて、好事例として鎌倉市は有名である。市民協働を進めるには、市民も行政もかなりのエネルギーが必要で、今までの意識を双方が変えていかなければならない。
- ・ 提出された意見は、中期基本計画への反映を検討し、結果については委員へ報告する。

(5) その他

次回の会議は10月27日（木）午後7時から八日市場ドームで行う。